

**法的思考プロセス講座**  
**民法 I (債権)**  
 リーダーズ総合研究所  
 竹内 千佳

法的思考プロセスとは

- ① 制度趣旨
- ② 理由づけ
- ③ 結論

民法 出題分析①

《民法択一式》

- ① 正答率60%以上(Aランク)  
→ 9問中4問
- ② 出題形式  
→ 個数0問、組合せ3問
- ③ 内容  
→ 判例問題、9問中6問

民法 出題分析②

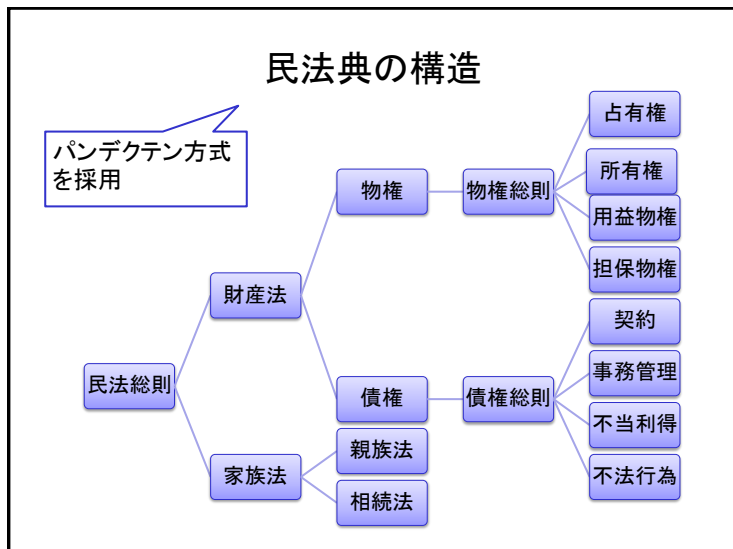
	20	21	22	23	24	25	26	27	28
権利能力			○		○		○		
制限行為能力					○				
意思表示	○		○		○	○	○	○	
代理	○	○			○				○
時効		○	○	○					○
不動産物権変動	○					○			
動産物権変動				○					
相隣関係					○			○	
共有			○				○		○
留置権								○	
先取特権									○
質権									
抵当権	○	○	○	○			○		○

民法 出題分析③

	20	21	22	23	24	25	26	27	28
債務不履行	○							○	○
債権者代位権									○
詐害行為取消権							○		○
連帯債務	○	○		○					
保証		○	○	○			○		
債権譲渡									
弁済・相殺	○						○	○	
契約の解除					○	○			
贈与(無償契約)								○	
賃貸借契約	○	○			○	○			
委任契約			○	○	○				
請負契約				○					
不法行為		○			○		○		○

民法 出題分析④

	条文	判例
Aランク		34 27 28
		29
Bランク	30	33
Cランク	35 31	32



### 民法の勉強方法

民法全体をみる  
→パンデクテン方式

民法の考え方を知る  
→民法は私法の一般法

具体的事例に落とし込む  
→本試験は事例形式で出題される

### 民法の考え方

私法の一般法

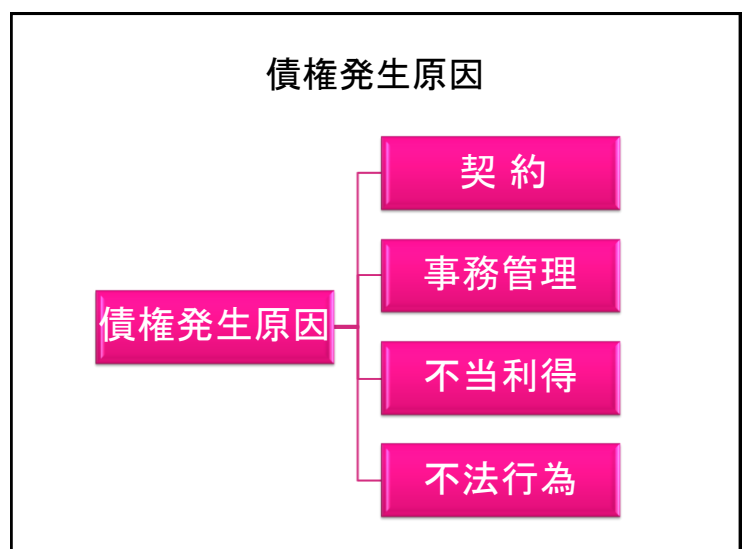
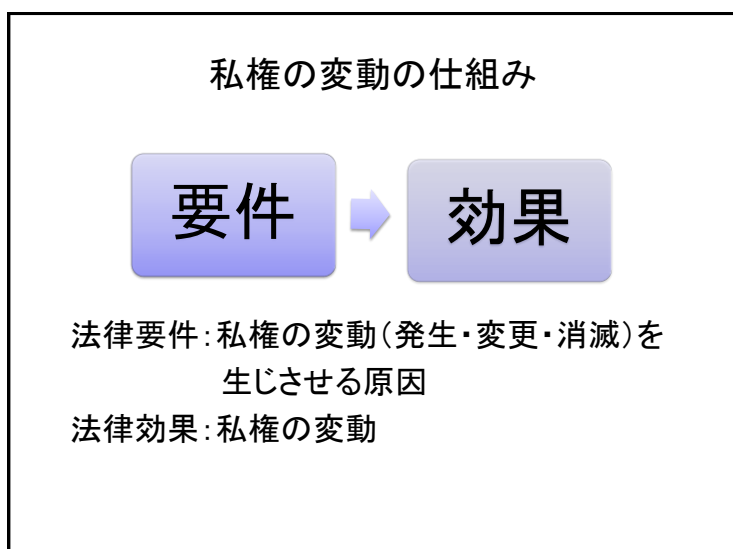
∴当事者間の衡平を図ることが目的

①原則→例外  
②要件効果

### 要件効果

(売買)

**第555条** 売買は、当事者の一方がある財産権を相手方に移転することを約し、相手方がこれに対してその代金を支払うことを約することによって、その効力を生ずる。



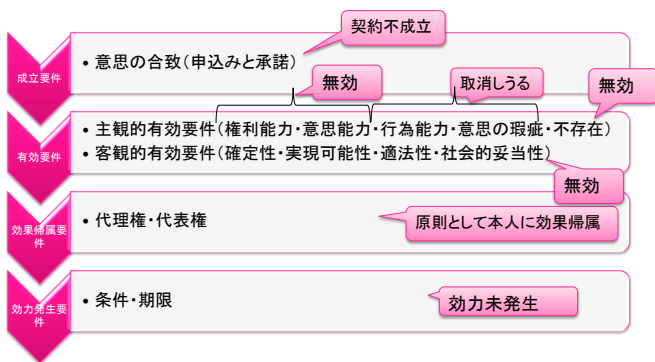
## 契約の効力発生プロセス



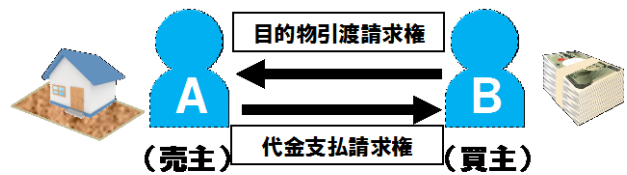
## 債権のライフサイクル



## 契約の成立から消滅までのプロセス



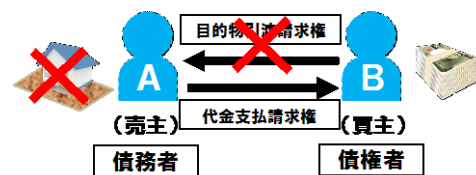
## 民法上の請求権



## 契約の要件効果(売買契約の場合)

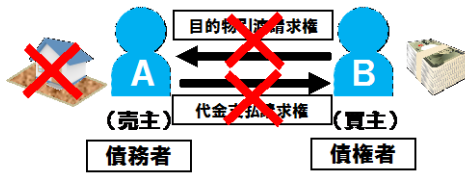


## 双務契約の特徴～牽連性～



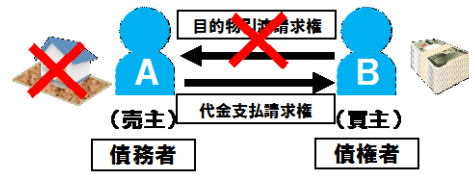
- ① 成立上の牽連性→原始的不能
- ② 履行上の牽連性→同時履行の抗弁権
- ③ 存続上の牽連性→危険負担

### 原始的不能(成立上の牽連性)



契約締結前目的物滅失  
原始的不能→無効

### 危険負担(存続上の牽連性)



Aに帰責事由あり→債務不履行  
Aに帰責事由なし→危険負担

### 危険負担(特定物売買)

特定物売買の場合、債権者主義をとるので、危険は債権者が負うことになる。



Aの代金債権は、Bの目的物引渡債権が消えても消滅しない。



AはBに対し、代金支払い請求をすることができる。

### CASE

AがBに自己所有の別荘甲を売り渡す契約をしたところ、その数日後、甲は何者かによる放火によって消失した。AB間の債権債務関係はどうなるか？

### CASE 解答

危険負担の問題になり、特定物売買なので債権者主義をとり、AはBに対し代金支払い請求をすることができる。

### 債権法上の処理

